



# なごや 学生社会課題解決 プログラム 参加学生インタビュー



## 「なごや学生社会課題解決プログラム」とは

大学生等が、社会課題・行政課題の解決に向けてチームを組んで活動します。

活動期間中は、コーディネーターのサポートを受け、行政等とともに課題解決に取り組み、自らのアイデアや仮説の検証・考察を経て、解決策を提案するプログラムです。

【参考 令和5年度実績】

活動期間：令和5年8月～令和6年2月

参加者：大学生・大学院生40名

参加料：無料（交通費相当マナカチャージ券の支給あり）

取り組んだ課題：

- ① アジア競技大会・アジアパラ競技大会に向けたまちづくり
- ② 安心・安全でおいしい水道水の魅力発信
- ③ エスカレーターの安全利用促進に向けた啓発
- ④ 生涯学習センターに若い世代を取り込む工夫



# それぞれの得意を活かし、チームでアイデア

令和5年度の報告において、学生同士で選ぶ「BEST SPARK賞」を獲得したのはウォーターラボチームです。名古屋の水の魅力を広めるアイデアを考え、実現させるために行動した5人のメンバーのうち、おふたりに話を聞きました。

## Q このプログラムに参加したきっかけは？

**木村** 友達に誘われて、気軽な気持ちで参加したんです。研究の仕事がしたいと考えていることもあり、上下水道局の理科っぽい内容の課題は、将来に活かせるかなと思いました。

**柳原** 名古屋市が運営している学生ポータルサイト「N-chan」でこのプログラムを見つけて。もともと、学校の専門に関わらず、幅広い分野を知るのが好きなので応募しました。水のテーマを選んだのは、近ごろ森林にも興味を持っていたからです。

## Q みなさんのチームはどんな活動をしましたか？

**柳原** 名古屋のおいしい水を知ってもらうために、主にふたつのアイデアを行いました。ひとつは、市が設置しているウォーターサーバー「金鯨水」の認知度を高めるポスターの作成。もうひとつは、名古屋の水について遊びながら学べるオリジナルのすごろくをつくって、市内の児童館においてもらいました。

**木村** ポスターもすごろくも、市の職員さんと意見を交わしながら、工夫を盛り込んで完成させたものです。例えば、ポスターにはクイズ要素を盛り込んで、二次元コードで答えを調べてもらう仕掛けをしました。アクセス数でどのくらいの人に届いたかが分かります。また、すごろくは、実際に子どもたちに遊んでもらう機会もつくれて。感想を直に聞けました。

## Q チームでの活動を通して感じたことは？

**柳原** それぞれに忙しいのもあって、はじめはLINEでアイデアを出し合っても、お互いにしっかり拾えず、なかなかまとまりませんでした。そこから徐々に忌憚のない発言ができるようになって。

**木村** 顔を合わせて話すようになってから、雰囲気が大きく変わりました。すごろくよりも先に、東山動植物園でクイズラリーをするアイデアもあつたんです。それは残念ながら実現に至らず…。最終発表も迫った時期でしたが、代わりにすごろくをつくろうとなってからの勢いはすごく、みんなで協力して、短期間で完成させられました。

**柳原** お互いに「なにができるか、なにが得意か」を知って、役割分担できるようになったのが良かったです。連携が円滑になりました。時間のない中、市内の児童館へ全員で分担してお願いの電話をかけるなど、チーム力がどんどん高まっていったと思います。

**木村** 振り返ると、最初は周りの声を肯定も否定もしないやり取りが少なくありませんでした。初対面でも、率直に思いを伝えられたら、考えが深まっていくのだと実感しています。



金鯨水をオリジナルポスターでアピール!



学生同士で投票し合う「BEST SPARK賞」に選ばれました!

# を実現！



## Profile

**柳原 琢馬** 愛知淑徳大学 健康医療学部3年生  
救急医療を学び、3年時には病院実習も経験。プライベートでは、多様な文化や価値観に触れたいと、国内外さまざまな場所へ旅に出かけている。2023年には、11カ国を巡った。Wi-Fiを持たない旅行にもチャレンジ。

**木村 優美** 名古屋女子大学 健康科学部3年生  
大学では管理栄養士になるための学習に励む。長野県の果物農家を訪れ、手伝いをするサークルに1年生の頃から所属。また、名古屋市の小学校の部活指導員に登録して、子どもたちにバレー、バスケットなどいろいろな競技を教えている。



ミーティングを重ねるほど議論が活発に。



楽しく名古屋の水について学べるすぐろく。

## Q このプログラムの良いところは？

**柳原** 名古屋市の職員さんたちと密にコミュニケーションが取れる体制です。コーディネーターさんが丁寧につないでくださいました。

**木村** コーディネーターさんは、必要な時にはサポートし、私たちが動いている時には適切な距離感で見守ってくださって。とても活動しやすかったです。

## Q どんな学びや気づきを得られましたか？

**木村** やってみたいことを言葉にするのは簡単です。けれど、実行できる機会はそうそうありません。実践力を磨く貴重なチャレンジになりました。大学でのグループワークでは、知人とのやりとりが多くなりますが、はじめましての人と接することで、予想できない考えにも触れられます。私自身の視野や思考の幅も広がりました。

**柳原** チーム内で、「自分はなにができるか」と考えがちですが、「みんながなにをできるか」を知ることで、よりお互いの力を活かすことができます。チームの力を引き出すのが大切だと分かりました。例えば、優美さんは絵が上手で、ポスターやすぐろくをデザインしてくれたんです。そして、パソコンの得意な人が手書きからデータに変換してくれました。みんなで生み出した成果です！



上下水道局の職員とも度々意見交換できました。

## [次年度の参加者へのアドバイス]

**柳原** 社会課題が身近になると思います。私も、水道水に詳しくなり、もっと飲もうと意識が変わりました。

**木村** 「真面目な人が多そう」「長い期間で大変そう」という印象でしたが、それは全くの思い込みでした。興味があったらぜひ挑戦してほしいです。友達を誘うのもあり！

# 思いや考えを伝える力をぐんと伸ばす経験に

2年連続でこのプログラムに参加してくれた学生もいます。二度のチャレンジでどんなことを学べたのか、1年目の経験はどのように活かされたのか聞きました。

## Q このプログラムに参加したきっかけは？

名古屋市に勤めることに興味があり、市についてさらに知りたいと参加を決めました。大学では、学生が企業にプレゼンをする講義を受けていて、そこで学んだことや身につけた能力を、この社会課題解決プログラムでも伸ばせるのではと考えました。

## Q 1年目、2年目でそれぞれどんな活動をしましたか？

1年目は、市の公式 LINEへの登録者を増やして、市政情報を有効に発信する方法を検討する課題に対し、学生目線で文章や画像の作成方法などの提案をしました。

2年目のテーマは、名古屋のおいしい水の魅力と認知度を高めるといふものです。課題解決に向けた取り組みのひとつとして、SNSのショート動画を制作することになり、自分たちで台本を書き、撮影も行いました。

## Q 1年目と2年目で異なる点がありましたか？

2年目は経験者として頼られることもあって、「期待に応えたい、超えたい」という気持ちになりました。それが嬉しい反面、チームの活動がスムーズでない時には、「自分がなんとかしなければ!」と少し気負う場面もあったと思います。

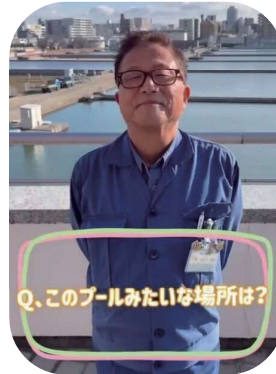
## Q 活動の前後でご自身に起きた変化は？

参加前は、学生と社会人では少し距離があると感じていました。プログラムを通し、熱意や思いを持って話せば、立場に関係なく対等に話せると気がつき、気兼ねなく会話ができるようになりました。

## Profile 福迫 丈



名古屋学院大学経済学部3年生  
大学での専門は統計分析。学生が考えたアイデアを企業にプレゼンする講義を1年時から受講し、アシスタントも務める。このプログラムの他、日本銀行が主催する事業などにも参加してきた。



水道局の職員と作り上げた動画!



浄水場で水が届けられる仕組みを学習。

## Q 社会課題について、どのように考えていますか？

自分の行動で誰かが幸せになり、社会が幸せになるなら、積極的に取り組みたいです。社会課題と聞くと、遠い話題にも思えますが、どこかで自分ともつながっているのだと、理解を深められました。そう気づいた人が課題解決のために、習慣を変えたり、継続的に行動できたりしたら、より良い社会に一歩近づくのではないかと考えています。

## Q この経験は今後どう活かせるでしょう？

市の職員さんに提案する中で、相手の質問に的確に答える力を伸ばせました。話の芯をとらえた回答ができたことで、印象に残っているシーンがいくつもあります。気持ちや考えを伝える力は、今後も活かしたいです。加えて、チャレンジが好きなので自分にも気づき、これからはなにごとにも挑戦していこうと思っています。

## 【次年度の参加者へのアドバイス】

活発な意見交換が、良い提案につながりました。自分の考えを発信するのは勇気も要りますが、繰り返すうちに、相手への信頼の大切さが分かるはず!

募集情報や活動の様子は随時 学生タウンなごやポータルサイト N-chan にアップしています!

<https://gakusei-town.city.nagoya.jp/>

